

(1) あま市立美和小学校の実践

ア 研究の経過

月 日	活 動 内 容
6月下旬 夏季休業中	全職員に学習評価に関するアンケート調査実施 授業マネジメントシートおよび指導案検討
9月6日	授業実践 3年生理科 会場：美和小学校 研究協議会 愛知教育大学 竹川准教授参加 授業マネジメントシート活用の意義の共通理解

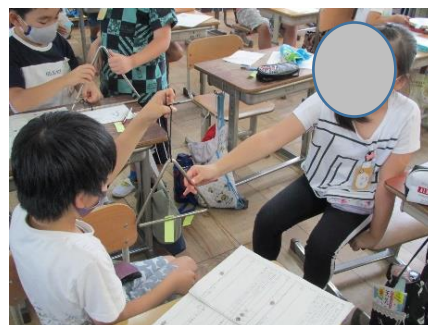
イ 実践

授業マネジメントシートと振り返りシートを活用した「指導と評価の一体化」を目指し、まず、3年生の理科で授業実践に取り組んだ。3年生で実践を行った単元は「音を出してしらべよう」である。授業マネジメントシートを作成する際、学校独自に評価の視点という欄を新たに設けて「主体的に学習に取り組む態度」だけでなく、「知識・技能」、「思考・判断・表現」についても評価計画を記載することとした。また、評価規準を明記することで、目指す児童の姿を確認できるようにしたいと考えた。振り返りについては、単元を通して使用する「音のひみつ発見ノート」と名付けた振り返りシートを作成し、本時のめあてと学習内容に応じた内容の振り返りを毎時間書かせる形式とした。

第1時では、教師の自作打楽器の音が出ているときの打面の様子の観察を行った。子どもたちは学習のめあてを意識して、実際に楽器の打面に触れながら、「音のひみつ」は『ふるえ』にあることに気付いていった。

授業を終えた後、本研究の顧問である愛知教育大学の竹川准教授の指導の下、研究協議会を行った。コロナ禍で、職員全員参加の協議会ができなかったため、授業後の協議会の様子を校内でオンライン配信し、全職員が視聴することで、研究に対する意識を高め、共通理解を図ることができた。

第5時の振り返りシートには、聞こえやすい糸電話を作る計画をしっかりと立てる様子が記されていた。また、糸電話を作って試した結果、「穴をもう少し小さくすればよかった」「糸をピンとのばす」といった聞こえやすい糸電話を作るための分かったこと、気付いたこととしてポイントを押さえて振り返ることができた。



【写真1 付箋の貼り方に気付く】

また、子どもの発見が、クラス全体に伝わっていくような学び合いの環境が自然とできていった。例えば、音を出している楽器がふるえていることを調べる実験では、より振動が分かりやすい付箋の貼り方に気付いた子どもの様子を見た別の子どもが真似をし、仲間に伝えたことで自然とクラス全体に付箋を貼るという方法が伝わっていった（写真1）。

Aは、振り返りシートに「100点」と自己評価したが、教師による見取りでは、自己調整力を発揮して学ぶことができていないと判断された。糸電話に必要な材料が思い浮かばず、紙コップの代わりに折り紙で作る計画を立てたものの、折り紙糸電話はよく聞こえなかった。うまくいかなかった理由を、自分なりに分析し、記述することはできなかった。このように、子どもの自己評価と教師の評価に解離が見られることもあった。あくまで振り返りは一手段であり、教師は子どもの振り返りのみで評価をしてしまわないようにしなくてはいけないことを再認識した。

この授業において授業マネジメントシートを活用したことにより、教師は計画的に指導と評価を一

体化させる意識をもち、授業に取り組むことができた。そして「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を意識して授業を進めることができた。また、子どもの変容した姿として、「これはどうして」というような疑問が出やすくなったと感じた。

ウ 成果と課題

3年生の授業実践を通して、次のような成果があった。授業マネジメントシートを活用することで、教師が意図的に話し合いの場を仕組むことができた。振り返りによる子ども同士の考えの共有の場ができたため、子どもの発見が自然とクラス全体に伝わっていくような、学び合いの環境ができた。単元の学習を通して主体性が向上し、活発に学習内容について共有をすることができたと言える。また、理科の記述式解答を苦手とする児童も「ふるえ」「しんどう」といったキーワードを使って正しく答えることができ、テストの平均点が普段より上がり、学力の向上が見られた。これは、たくさん試行錯誤し、伝え合ったことが原因の一つであると考えられる。

経験が浅い教員は、児童に考えさせる前に教師から教具を提示してしまうことがあった。しかし、授業マネジメントシートを活用し、授業改善を目指したことで、授業についての課題を視覚化することができ、児童の考えを生かしたり、いくつかの道具を用意して提示して選ばせたりするなど、次時以降の教材研究に生かすことができた。今回作成した「授業マネジメントシート」と「振り返りシート」を今後の研究の足がかりとするために、校内ファイルサーバに入れ、なおかつ学年ごとにファイルに綴ることで、校内で共有し、次年度以降も活用しやすいように工夫していきたい。

単元の最初と最後だけでなく、途中でも毎回振り返りシートを書かせたことで、授業時間内に書かせることができないことがあった。また、振り返りシートを理科ノートとしても使うことで、子どもたちにとっては分かりやすかったが、シートの作成に時間がかかってしまった。児童の振り返りシートを毎時間点検するのは時間がかかる。教師の仕事の業務改善も視野に入れつつ、書かせる目的を明確にし、汎用性を高められるよう、よりよい方法を工夫し、本研究に取り組んでいきたい。